

なまはげ館面の制作実演

男鹿のなまはげは多種多様な仮面を被っており、その外見はそれぞれの村で異なります。伝統的に、各村の住人はなまはげの仮面を作るにあたって何でも使える材料を使っていました。そのため、完成した仮面は、自然環境の影響を受けたものとなります。ここで作業をしている職人は何十年にもわたって、主に桐材から仮面を彫ってきました。桐材は、秋田県で豊富に採れる軽くて頑丈な素材です。彼が専門とする、細かい彫刻が施されて色が塗られた、耐久性が優れた仮面は元々、観光客向けに作られたものです。今では、耐久性に劣っていた元来の仮面の代わりに、観光客向けのものを大晦日の夜のなまはげ訪問時に用いている村もあります。ここでは職人が作業している様子を見ることができ、何の変哲もない木材のブロックから表情豊かな仮面を作り出すという骨の折れる工程を見学できます。